

鳴戸親方も見物

唐津くんち
ファイナーレ



笑顔で曳山を迎える鳴戸親方（中央）

唐津神社の秋季例大祭「唐津くんち」は最終日の4日、14台の曳山が市中心部を巡行する「翌日祭」でファイナーレを迎えた。2日からの祭り期間中、旧城下町をきらびやかな曳山が進み、路地裏にも曳き子たちのかけ声が響いた。

午前10時、各曳山が唐津神社を出発し、綱を引く子どもたちを先頭に各町を巡行した。水主町付近では、大相撲九州場所です市内に宿舎を構える鳴戸部屋の鳴戸親方（元大関琴欧洲）や、服巻信也・同部屋九州後援会長らがお祝いの酒を携えて到着を待ち受けた。鳴戸親方は「迫力があってすごい」と喜び、服巻会長は「く

んちの皆さんの力も借りて、九州場所でのいい結果を残せるよう期待したい」と話していた。

唐津曳山取締役会によると、4日までの人出は計約57万人。

読売新聞

2019年11月5日発

25面